

令和7年度全国学力・学習状況調査 今治市の調査結果の特徴

1 平均正答率等（県の平均正答率と比較して）について

【小学校】 国語、算数は同じ結果でした。理科では▼1.0%下回りました。

【中学校】 数学は同じ結果でした。国語は▼1.0%、理科は、平均 IRT スコアは 499（全国平均 503）でした。

2 教科別について ○成果 ▼課題

【小学校】

(国語) ○ 「話すこと・聞くこと」 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかの問題

▼ 「言葉の特徴や使い方に関する問題」 漢字を文の中で正しく使うことの問題

→ 漢字を「読む・書く」だけでなく、同音異義語の使い方や熟語の意味を文脈で考えさせるなどして、「使う、選ぶ、比べる」活動を取り入れる必要があると考えています。

(算数) ○ 「図形」領域の「知識・技能」台形の意味や性質について理解しているかの問題

▼ 「変化と関係」領域の「思考・判断・表現」の問題

→ 割合の表現が用いられる場面において、二つの数量の関係について、表現の意味を正しく解釈する指導が必要であると考えています。

(理科) ○ 「生命」を柱とする領域 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についているかどうかの問題

▼ 記述式の問題

→ 実験・観察において、考察を行う際に、キーワードを活用して自分の考えを書かせる活動を取り入れる等の必要があると考えています。

【中学校】

(国語) ○ 「話すこと・聞くこと」 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかの問題

▼ 「書くこと」 自分の考えが伝わる文書になるように、根拠を明確にして書くことができるかの問題

→ 読書の意義を考えさせたり、生徒が主体的に文章を読むことができるような授業改善に取り組みたいと考えています。

(数学) ○ 「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点、特に「数と式」（素数の意味理解の問題）

▼ 記述式の問題

→ 習得した用語を論理的かつ的確に説明する場면을授業等においてより多く確保していきたいと考えています。

(理科) ○ 「生命」を柱とする領域 呼吸を行う生物を選ぶ問題

▼ 記述式の問題

→ 授業の中で振り返りを行い、自分の言葉でまとめるなどの活動を取り入れる必要があると考えています。

3 児童・生徒質問紙について ○成果 ▼課題

○ 「学校に行くのは楽しい」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均を上回っています。

→ 魅力的な学校づくりができ、教職員や友達と良好な人間関係を築くことができていると考えられます。

○ 「自分にはよいところがある」と答えた割合が、小中学校ともに全国・県平均を上回っています。

→ 成功体験や友達や教職員との良好な関係が自尊感情を高めることにつながっていると考えます。

▼ 「朝食を毎日食べている」と「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えた割合が、全国・県の平均より低くなっています。

→ 家庭との連携を図り、生活習慣の確立に努めます。

▼ 「平日、休日に授業以外に1時間以上勉強する」と答えた割合が、全国・県平均を下回っています。

→ 今後も授業改善を図るとともに、継続して家庭学習の習慣化を図っていきたいと考えています。

今後も、教師と児童生徒との信頼関係、育まれた自尊心や自己肯定感を生かしながら、児童生徒が目標をもって主体的に学習に取り組む態度を育てていきたいと考えています。